

2014年3月期第3四半期決算 電話会議 主なQ&A

- Q 中計の施策の進捗状況や、来期の経営上のトピックスはどうか。
- A 来期は、消費税増税の影響や航空機との競合など、引き続き不透明な経営環境だと認識している。新幹線では、春に東海道・山陽・九州新幹線の競争力強化を狙うダイヤ改正を予定しているほか、2015年春の北陸新幹線金沢開業も近づいている。列車体系や列車名も発表し、地元でも様々な観光誘客の取り組みが加速してきている。来期は多額の開業準備費用が先行する年になるが、開業効果を最大化できるよう、しっかり準備をしていきたい。
- また、先日、大阪駅のノースゲートビルディングについて、2015年春に向けた再編の大枠を発表した。大阪エリアの厳しい競争環境の中、勝ち残っていくために、成功してきたSCの強みを全面的に押し出しながら、一方で百貨店の強みを融合できる、新たな業態へのチャレンジと考えている。来期は、この準備のために、8月以降は西館の大半が休業することとなり、一時的なコストも発生するが、2015年度以降の成長に向けて、しっかり取り組んでいきたい。
- そのほか、アジア航測の株式取得と業務提携、海外向けインターネット販売の開始、大阪環状線改造プロジェクトへの着手などを発表した。様々な機会をとらえて、鉄道・非鉄道とも中長期的な視点から安全性向上・収入拡大・運営効率化へ打ち手を積み重ねていきたい。
- Q 新幹線のご利用について、第1四半期では、近距離や東京方面が多いなどの特徴があったが、景気改善の影響も踏まえ、第3四半期では、何か特徴はあるか。
- A 第3四半期については、山陽完結、東海またがり、九州またがりの全てでご利用が対前年を上回った。中でも九州またがりの伸びが相対的に高く、熊本・鹿児島方面ともに堅調なご利用であり、スーパー早特きっぷや「リメンバー九州」キャンペーンなどの施策の効果が出ていると考えている。また、土休日・平日では、同じくらいの伸び率となっており、ビジネス、レジャーともに堅調なご利用だと認識している。
- Q 修繕費について、世間一般では人手不足等でコスト上昇の気配があるが、関西エリアでも、そういった兆候は見られるか。
- A 今期の工事については、契約済のものが多いため、すぐに影響を受けるものではない。しかし、関西でも人手不足や円安による資材の高騰が進んでいる話は聞こえてきており、来期以降の計画を立てる際は、慎重に考えていきたい。
- Q 大阪駅のノースゲートビルディングの再建策については、SCの中に百貨店店舗がテナントとして入ることになるわけだが、こういった層をターゲットにするのか。
- A 新しい店舗は、現状の大阪駅北側の流動を踏まえ、三越伊勢丹が対象としていた少し高い年齢層を意識した施設から、より若い層をターゲットにする方向にシフトしていく。百貨店の強みは、ブランドの垣根を越えた売場づくりができることであり、この強みを生かしながら、SCのアンカーテナント的な役割を果たしていく。今回の計画は、関係者の中で相当じっくり作り上げ、テナントの意見も聞いており、一定の成算を持っている。
- Q 復興特別法人税が1年前倒しで今期末で廃止された場合の影響はどうか。
- A 現時点では、業績予想に影響を加味していないが、改正税法が公布された場合、繰延税金資産の取崩が必要となり、今期の法人税等調整額が連結で20億円程度増加し、当期純利益が同額、影響を受ける可能性がある。